

議 長 それでは、休憩を解いて再開いたします。 (11時22分)

次に、受付番号第10号、中野博君の一般質問を許します。登壇願います。

8 番 中 野 それでは一般質問をさせていただきますが、まず時節柄、私が行います観光客誘致を図るという質問をすることは、大変逆行に近いようなことを質問するわけですが、いつまでもこのコロナウイルスが続くわけではございません。終息をした折に対しての対応策として質問させていただくことでございますので、その点は御了解をいただきたいと思えます。

それでは、受付番号第10号、質問議員、第8番 中野博。件名、観光立町を目指す町の今後を問う。

要旨、松田町の活性化策の一つとして、町の財産とも言える大自然等を活用した観光客誘致を図ってはいますが、いまだ大きな成果を得るまでは至っていないように思えます。

イベント事業の最大とも言える「桜まつり」も年々減少傾向にあり、今こそ交流人口増加策を再考するときと思えますが、町としてのお考えをお聞かせください。以上です。

町 長 それでは中野議員の御質問にお答えをさせていただきます。まず、町を訪れる観光客の推移について申し上げますと、平成26年で55万6,304人、次に昨年になります、平成30年になります、70万4,227人と、5年スパンで見ると増加傾向にあるようです。天候やトレンド等に左右され、平成29年には72万8,097人と、平成30年よりも2万人多い年もございましたが、全体として堅調な伸びであることは、本町を知り、その魅力に理解を示される方々がふえているという見方もできるのではないかとこのふうにも予測しております。

本年第9回目を迎えましたロウバイまつりについては、おかげさまでほぼ右肩上がりの入り込みとなっており、ことしの2万4,864人は、4年前と比較しますと倍増となりました。地域や関係者の手づくりのお祭りが年々評判を高め、リピート率も高く、まさに交流人口増加に大きな役割を果たしていただいております。まつりを運営するロウバイ部会においては、高齢化の課題もありますが、ことしは寄七つ星ドッグランの協力による食事の提供や、Yadoriki Healing Village有志の会による苔玉や風車づくりといった体験プログラムのブースが

設置されるなど、地域が一丸となった運営体制の確立に向けて今後に期待を寄せているところございます。

ロウバイ園の入園料につきましては、私が就任いたしました平成25年度から200円と設定させていただき、その年は211万6,500円であり、翌年には308万1,700円を収入いたしました。その後、環境整備、認知度の向上から、平成27年度には100円アップで300円へ値上げをいたしましたが、入園者は増加を続け、これに比例して昨年度は761万1,900円、今年度は集計中でございますが、約700万円を歳入しております。また指定管理制度で、民間活力を導入している、寄七つ星ドッグランにおいては、町が直営管理していた平成28年度と比較すると、昨年度は約2万人の入園者数、1,565万円余の入園料を収入とし、ほぼ倍増し、収支の移行も堅調であるなど、民間の知恵とノウハウが奏功している好事例もございます。

さて、御質問にあります桜まつりに関して申し上げますと、入り込み客数については、平成20年の33万人という記録があるようですが、それ以降は15万人前後で推移してきており、平成28年の18万人からは毎年約2万人ほどの減少が続いております。そのような状況もあり、桜まつりを持続可能な事業にしていくなめには、これまでと同じやり方ではなく、お客様をお呼びできるイベントなどを企画するために必要な財源を確保するためには、来園者の皆様方から協力金をお願いを申し上げたところ、昨年は約12万人でございました。ことしは新型コロナウイルス等の影響により、まつり期間の短縮等もございまして、約10万人を想定しておるところでもございます。

昨年同様ことしの桜まつりも、地域や各種団体の皆様方から御協力を賜り、精力的に事業を展開したところでございます。ことしは大名行列保存会の御提案により、まつり始まって以来、初めて3月1日にまつり会場にて奴ぶりが披露されるなど、誘客に向けた新たな取り組みを御挑戦いただきました。

一方、観光事業として経営的な観点から、これまでの来園者数のデータを分析した結果、金・土・日のハーブ館の売り上げにつきましては、全体のおおむね6割といった傾向を踏まえて、ライトアップは原則金・土・日に限定するなど、経営改善にも鋭意取り組んでまいりました。

最大の誘客を見込め、町の顔とも言える桜まつりをさらに盛り上げていくことは、地域経済を活性化させることと同義でもあります。来園者数の増加が単純に経済への好循環へつながるわけではなく、ことしも昨年と同様に一定数のお客様で会場がにぎわうほうが滞在時間が長くなり、飲食やお土産の購入など売り上げが上昇し、客単価も上がっている傾向でもございますので、桜を愛でくださるお客様を大切におもてなしすることをしっかりと行い、リピート率の向上を念頭に、今後イベント開催等を図ってまいりたいというふうに考えております。

また、本年は観光事業の中心となる民間事業者を選定し、町財源の有効な活用を図るとともに、松田山にオールシーズンお客様を呼べるイベントを企画してまいりたいというふうにも考えております。そのためには、今後も町観光協会様や、商工関連はもちろんのこと、ほかのさまざまな関係団体の皆様と議論を重ね、御来町いただいておりますお客様に喜んでいただけるブランド品の開発や、御当地グルメをふやすなど、さらなるアイデアや工夫を凝らし、町全体のイベントとして盛り上げてまいりたいというふうに考えておりますので、引き続き御協力のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。以上です。

8 番 中 野      ありがとうございます。まず、私がこの一般質問、最後でございます。コロナウイルスの関係で、きのうからこの一般質問、短縮に短縮にということをおっしゃられてますので、私も質問の内容を変えまして、要旨のみを質問をさせていただきたいと思っておりますし、また御答弁いただくであろうと思う石井参事につきましても、あなたは非常に饒舌家でございますので、またきょう私の質問にお答えするのが、職員上最後のこととなろうかと思つて長々と御答弁をしたいところではありまじょうが、ぜひ御協力をいただいで的確な短い御答弁で結構でございますので、よろしくお願いをいたします。

ただいま町長からの御答弁で、入り込み客数が年々ふえてますよということでしたが。平成26年には55万、30年が70万、29年が72万と。この数字だけを見ればふえてるよに思いますが、果たしてこの入り込み客数の一人ひとりのどういうふうなカウント、根拠があるのかと。新松田駅を降りた人も1人なのか。確かにデジタルサイネージというのが新松田駅前にはできましたね。

このタッチパネルを使って、この近隣市町の観光地等がごらんになれるわけ  
でございます。これはいい試みだとは思いますが、新松田駅を降りてこれを見て、  
ただバスに乗って、また御殿場線で新松田を通過して、その人も1人のカウン  
トに入ってるんじゃないかなろうかなと。私はそのような懸念さえ受けておると  
ころでございます。

前置きはその辺にいたしまして、我が町には大きな産業、商業、工業といった  
ものはございません。しかし、どこの自治体よりも誇れる大自然という大きな  
財産があるということで、この財産等を使って観光立町を目指してきたわけ  
でございますが。先ほど来より、1年を通じて大きなイベントがたくさんござい  
ますが、これだといった大きな成果を上げているようなイベントもないように  
思います。一つ気を吐いてるのがロウバイまつり。しかしこのロウバイまつり  
も2万2,000人から2万5,000人がアッパーであろうかと思えます。それはそれ  
以上呼べるというような施設等の容量もないわけでございますので、これ以上  
の誘致客は増加は無理かなというところでございます。桜まつりにしましても、  
平成20年の33万人を筆頭に、年々年々2万人ずつ減り続けて、ことしは約10万  
人で終わろうかなということで。ことしの場合ちょっとイレギュラーな部分  
もあろうかと思えますが、それが実態かと思えます。

多くの自治体の観光客誘致の成功例を見てみますと、やはり花より団子なん  
ですね。当然花も景色もそれは大きく大切なことではございますが、やはりき  
れいな景色を見て、きれいな花を見て、そこにすばらしい、おいしい食べ物があ  
るということが、これがリピーターにつながるわけでございます。1年間、年間  
を通して松田町に何回も何回も来ていただけるお客を育てる。リピーターを育  
てるということが何よりも観光客誘致の最大の要点ではなかろうかと、そのよ  
うに思っております。松田町にも過去から開発費用として、特産物の開発費と  
して年間40万円の予算を編成、組んでおりますが、これらを使った、補助金を使  
った今まで何名もの個人、または会社等が開発をしてきたとは思いますが。何件  
かの事例もございますが、今まで一体何件それがあつたのか。そして今その開  
発された品物というのほどのようなになっているのか。多分、私はどれ一つとし  
て…どれ一つとしてという大変語弊があるかもしれませんが、成功例はなか

ったように思っております。非常にもったいないなと思うわけでございます。ことしも40万円がついております。その辺のところの、ただ補助金を出した、あとは勝手にやってくれるところではなくて、しっかりと検証がまずされてるんでしょうか。

参事兼観光経済課長 ただいまですね、特産品開発事業で実施しました補助金を使った事業では、6つのですね、商品がですね、今現在も販売をされてるということで、平成元年の8月にですね、調査等、売り上げ等の調査はさせていただいております。以上です。

8 番 中 野 6品目について現在も販売されているというふうなお答えですが、一体それがどこで売られてるのか。全く私たち、私も町民もわかりません。特産品、町を代表する特産品というならば、どこの商店に行ってもほとんど置いてあるよというものが特産品であろうかと思えます。これは時短の問題でそれ以上は聞きません。ぜひ今後もすばらしい特産品、特産物を開発していただくようにと願ってやみません。

そしておいしい食べ物、おいしい御飯ということになると、今までは特に飲食店組合に委ねられてきたとは思いますが、その飲食店組合さんも、もう手持ちがゼロになってるんじゃないかならうかと思えます。そこで、もし飲食店組合さんが無理ならば、地域ブランドプロデューサーという専門業者がいるんですよ。これらの人に委ねまして、特産品開発事業を使ってですね、思い切ってその人たちに松田町の特産品というものを開発してもらうのも一つの手であらうかと思えますが、その辺のお考えはどうでしょう。

参事兼観光経済課長 やはり私の考え方で言いますと、やはり松田町のものを知っているのはやっぱり地元の方かなというところが1点ございますので、やはり地元にある団体等を大切にさせていただきながら、また考え方が定期的に固まってしまっているところもあればですね、やはりそういう方のアドバイスというのもですね、ひとつ考え方の一つになってくると思えますので、両方のいいところを組み合わせでですね、いい特産品開発に進めていただければと思っております。以上です。

8 番 中 野 次に、先ほど町長のお言葉にもありました、松田町を代表する観光地。これ

はもう西平畑しかないですね。西平畑、過去累積をすれば何百万人の観光客を誘致しているところがございます。やはり松田町の顔とも言えるところで、ここを寂れさせては絶対にだめだと思っております。あそこから見る景色、特に富士山、そして相模湾、大島。私たち住みなれた者が何度見ても飽きない景色なんです。桜もそうですが、どうしてあのあそこから見るこの絶景をもっともっとアピールをしていかないかなと。あそこから見る富士山なんてもう最高に、誰もが絶賛する景色だと思います。1年間に1回ですか、行われますフォトコンテストも、西平畑公園から見た絶景とかと銘打って限定したコンテストをやることも結構ですし、またこの地域にはブランド牛、足柄牛があるわけがございます。せっかく3階に立派なレストランがあるんですから、あそこでブランド牛の足柄牛を使った特別メニューを開発し、あそこで食事をしながらすばらしい眼下の相模湾を眺めながら食事をしていただくと。そうすれば必ずや1カ月先、2カ月先、予約でいっぱいだよと。そんな夢みたいなことが、現実が起るんではなかろうかと思いますが。西平畑を今後しっかりと守っていくという、今、金・土・日というような開園も、だんだんだんだんじり貧になっているようには思いますが、その辺のところもしっかりとやっていくということ、ぜひぜひ石井参事のほうからお聞きしたいと思っております。

参事兼観光経済課長

ただいま御質問いただきましたように、すばらしいですね、ロケーション、プラスやはり、先ほどからいろいろ御意見ただいておりますように、そこで来ていただいて、いかにそこでお金を落とさせていただくかというのがやはり一番大切になってきますので、やはり私が考えますには、商業ベースでやっぱり進めていく。その商業ベースで進めるためには、やはり民間の活力、イコールですね、指定管理者に向けてですね、町としても今後努力していきながらですね、いろいろな関係のですね、条例等の整備を今後進めていきたいと考えております。以上です。

8 番 中 野

そうなんですよ。あそこに来ていただくお客さんは、景色を眺めてそのまま帰ってもらったんでは、ごみを落としていただけなんです。ですから先ほども申してるとおり、おいしい食べ物、おいしい御飯をつくりましょうよと云ってるんです。それを開発事業として40万、毎年毎年出しておきながらというのは

語弊がありますが、いまだこれぞという成功例が見えないということで、私は強くその辺のところ、開発をお願いをしたいと、また提案をしたいということでございます。

もう1点。観光協会が一社化になって2年目になりますが、たしか自分で稼ぐ力を持つということで、一社化となったわけでございます。ふるさと納税の返礼品事業も手がけておったようではございますが、私には自分で稼いでいるというような部分がちっとも見えないんです。2年目に入りますが、一社化になってどのように変わったのか、お教えいただきたい。

参事兼観光経済課長

ただいまのですね、ふるさと納税につきましてはですね、平成30年度、確かに進めさせていただきました。ただ、一番やはり観光協会の中でですね、そのシステムを運用していく方がですね、やっぱり観光協会の中で育てきれなかったということで、やはり外注ということで対応されたということで、観光協会としてのやはりメリットがなかったかなということで、今現在その点については休止という形になってございます。

ただ、今おっしゃっていただいたように、今現在ですね、やはり観光協会のほうも、事務局長さんも専務理事もかわられたというところで、毎年ここ2年かわられたということですね、今現在のですね、事業等進捗されるのが今のところこれで精いっぱいというようなところが、その点はございますので。やはりここでこれからなれていくことによってですね、やはり本来一社化した目的、稼ぐためのですね、事業を今後いろいろ考えてっていただくということが、今後進められていくということを期待しているところです。以上です。

8 番 中 野

ぜひお願いします。それで観光協会、今後のですね、観光協会の運営方針等見ますと、先ほど町長がね、SDGsの取り組みの中で、これも一つSDGsなんだよということで、小学生に特化した酒匂川でアユの放流体験を、これたしか4月11日にやられるということ。私これ見ましたら、素晴らしいことをやられるなと思ったわけでございます。観光協会の中にも、今後の取り組みの中にしっかりと酒匂川を活用したアユ釣り大会ということが銘打ってございます。実施していきますよということが書いてある。我々はどうしても松田町の観光というと、山々を想定してしまうんですが、素晴らしい酒匂川という清流があ

るわけですね。それで私たちが育ってきた。昔は松田町の特産物、特産品という  
とアユだったんです。酒匂川のアユというのは非常においしい。臭みもなく  
てというのは、上流から下流まで大きな工場がございません。廃液が流れてな  
いからなんです。それでどこ行っても食堂へ行けばアユ寿司、アユのフライ、  
塩焼き、てんぷらといったものが食べられたものですが、今1軒としてそうい  
ったところはございません。どうしてこの辺のところを活用しないかなという  
ところで、観光協会がそのことを掲げておるんですから、1,800万の補助金を町  
もまだまだ出しておるわけです。もっともっと強くアピールしてよろしいんじ  
ゃなからうかなと思います。

私、20年前になろうかと思いますが、15年前か、8年間にわたって酒匂川でア  
ユ釣り大会が開催されたということは、石井課長も多分記憶にあらうかと思  
います。これは私が提唱者の一人でございました、その当時。そして当時の島村町  
長に提唱しましたところが、快く引き受けてくれたんですが、何分にも7月、8  
月という季節ですから、観光まつりと重なってしまうということで、職員が大  
変だということで断念をせざるを得なくなり、当時の大井町の町長が、それな  
らばうちでやろうということで、大井町さんが引き受けてくれて、あの例の三  
角土手、あそこは松田町の土地のところなんです、あそこを使って、駐車場と  
して活用できますから、8年間開催をしてくれました。それで私も役員の一人  
として大いににぎわったものです。西は京都から東は北関東、群馬、栃木、埼玉、  
全て。首都圏は当然のことながら、250人エントリーを募集したところが、い  
つもいっぱいになりまして抽選です。そしてこの酒匂川というすばらしい清流を  
知っていただき、松田町というすばらしい地域を知っていただいた経緯がござ  
います。もっともっと大井の町長さんは続けていきたくったということですが、  
当時の経費としまして、1度やると50万かかりました。50万は私は安いほうじ  
ゃなからうかと思えます。今私が考えると、そのうちの20万というのは非常に  
無駄に使っていたお金ですから、今やってもその20万は支払わなくてもいい金  
額だと思いますので。ごくごく最少の予算でできるのではなからうかと思いま  
す。せつかく観光協会がそういうふうなことを掲げておるんですから、またここ  
で小学生を対象にしたアユの放流というものを掲げておるんですから、いい機



会だと思えます。ぜひ、まだその当時の人たちは元気でいます。携わってくれた人たち。私もまだまだ記憶に新しく、忘れておりません。そして何よりも協賛をしてくれる会社、アサヒビールという、当時はキリンビールでしたが、今はアサヒビールというのがございます。ビール会社というのは何よりも水が第一なんですね。酒匂川の源流を使ったすばらしい水を使ってアサヒビールができてるわけです。一言協賛をしてほしいと言えば大枚出してくれるはずですよ。ぜひこの辺のところを、町側がイニシアチブをとって、観光協会のほうに、俗に言う尻をひっぱたいてやっていただくというような考えをぜひぜひ持っていただきたいんですが、最後にその御答弁をお聞きをしたいと思えます。

参事兼観光経済課長

ただいまのですね、アユ釣り大会についても、総会の資料の中でですね、観光協会としても調査研究を進めていって、実施に向けてというような文面がですね、確かにうたわれておりますので、やはりですね、その前に出ました事業を実施する上で、やはり赤字にならない、やはりプラス、もうかるというような展開をですね、しっかり協力金等も考えていただきながらですね、この事業の推進についてですね、進めていただくような形のことをですね、期待をしているところでございますので、よろしく願いいたします。あくまでも一社化といたしますと、やはり個人、やはり観光協会の理事会というものもございまして、理事会等の意見を踏まえていただきながらですね、その中には酒匂川漁協の代表の方もいらっしゃいますので、よりよいですね、方向性に進んでいただければというところで、よろしく願いいたします。

8 番 中 野

参事はこの3月で去ってってしまう方ですから、期待で結構ですけども、次の方にですね、期待ではなくてもっともっと1,800万を出してるんですから、イニシアチブを持って、行政側が観光協会を尻をひっぱたいていていただきたいと、そんなふうに思うわけでございます。

いずれにしても、今後の松田町の総合戦略の中で、問題、課題とすべきことは、特産品、ブランド品の開発をし、産業力を強化するというふうにごうたわれているわけでございます。ぜひこの特産品、ブランド品の開発に力を傾注していただくことを要望いたしまして、短縮になったかどうかわかりませんが、これをもって質問を終わりといたします。ありがとうございました。

議

長 以上で受付番号第10号、中野博君の一般質問を終わります。

以上で本日予定しました日程の全てが終了しましたので、本日の会議はこれにて散会いたします。なお、午後1時半より大会議室において議会全員協議会を開きますので、定刻までに御参集くださるようお願いいたします。

本日は御苦労さまでした。

(11時50分)